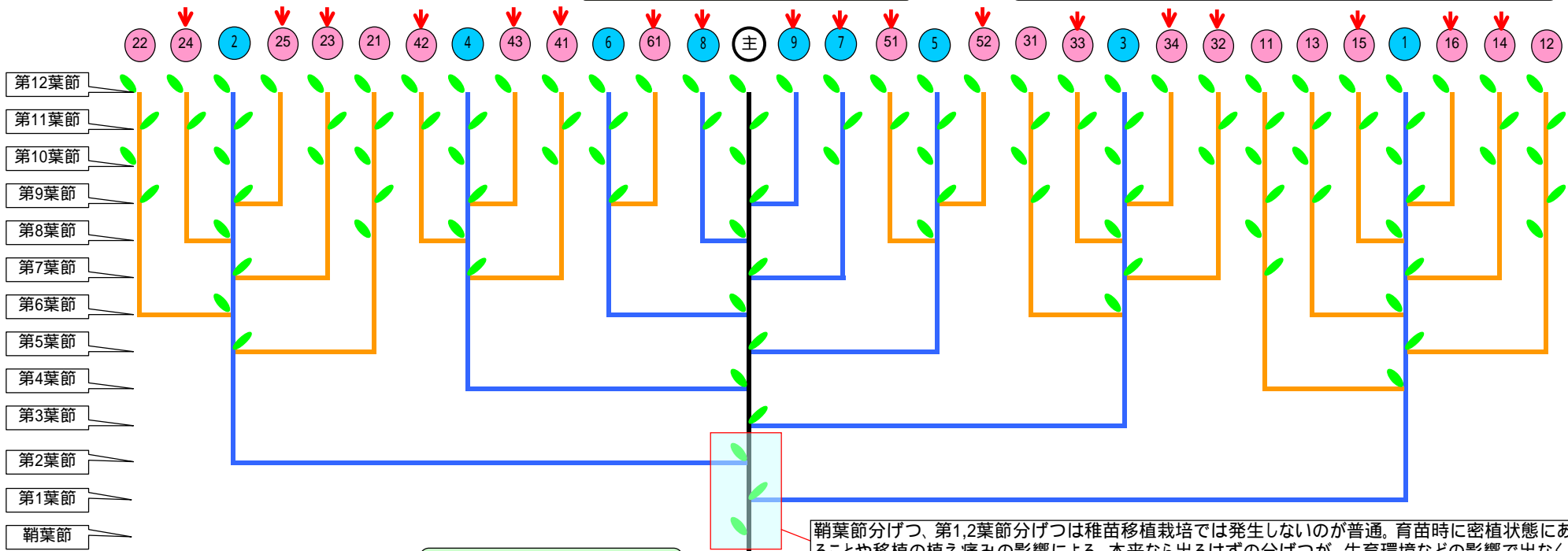


**分けつ体系(主稈第12葉抽出時)**  
分けつは2次分けつまでとした場合

分けつについてより詳しく知りたい人は、星川清親著「解剖図説イネの生長」p.157-178等を参照すると良い。イネを扱う人は必携の名著。



鞘葉節分けつ、第1,2葉節分けつは稚苗移植栽培では発生しないのが普通、育苗時に密植状態にあることや移植の植え痛みの影響による。本来なら出さずの分けつが、生育環境などの影響で出なくなることを、分けつの休眠という。

直播栽培では第1葉節分けつが出ることもある。鞘葉節分けつはごくまれに発生するが生長は貧弱。直播栽培でこれらの低位節分けつが発生するのは、育苗条件にくらべて栽植密度が低い。低位節の分けつは一般に強勢な分けつだが、第1ないし2葉節分けつまでは例外的で弱勢である。

同じ時期に出る葉(同伸葉)を同じ節位にそろえて描くと、分けつの全体像が把握しやすい

図を描く時のコツ:(正しい分けつ図が描けていなかった人のために)

- (主) 主茎(主稈)
- (n) 主茎第n葉節からの1次分けつ(第n号分けつ)
- (nm) 第n号分けつの第m葉節からの2次分けつ

ここでは、主稈第12葉が止葉(最上位の葉、つまり穂の直下の葉)ではないと仮定し、発生しうる分けつのうち、鞘葉節に由来するものを除き記載したが、鞘葉節由来の分けつも含めると分けつ数はさらに8本増えて、39(主稈を含む)本になる。一方、主稈第12葉が止葉だとすると、上位節(7~9)の1次分けつが発生しない(分けつを発生しない非伸長節間数を5とした場合)など、つぎの分けつは発生しない。

- 1) 一番上位節の1次分けつが主茎のどの節から出るかを考え、一番上の1次分けつを描く(主茎最上位葉の3枚下の葉の節から出る)
- 2) その分けつには葉が1枚だけつく(同伸葉の関係による)
- 3) 続いて順次それより下の1次分けつを描いていく(分けつの節位が1つ下がるごとに1次分けつにつく葉の数は1枚ずつ増える)
- 4) 各1次分けつについて、1)~3)と同じことを行って2次分けつを描いていく(主茎と1次分けつの間に成り立つ関係が、1次分けつと2次分けつの間にも成り立つ)

**活着の遅れの悪影響**

1) 初発分けつ(最初に発生する分けつ)節位が上昇したり、初発分けつが弱勢になる  
活着するまで苗は栄養的に不良環境下におかれるため、分けつの発育に悪影響するから  
本来生産力の高い下位節の分けつ数が減少したり、弱勢になるので、収量への悪影響がある

2) 新葉の出葉が遅れるので初発分けつの発生時期が遅れ(同伸葉の関係による)、主茎葉数の減少(分けつ数の減少に繋がる)や出穂の遅れを招く(早生品種で相対的に影響が大きいが、晩生品種では小さい)。

活着が遅れても、出穂の時期はそれほど遅れない傾向にある(ある特定の地域における出穂の時期は品種と移植時期が決まっていれば、ほぼ一定:なぜかは、前期の「植物生産環境情報学」に関連の講義内容があります)ので、活着の遅れは、活着~出穂までの期間の長さ、つまり、分けつの期間の長さを短くすることになる。分けつ期間が短くなると、その間に出る主茎の葉の数が少なくなり、その結果、1次分けつ、ひいては2次分けつなども少なくなる。